



鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第100号

2019年7月3日

2019年度年次総会を太宰府天満宮で開催

正・市民会員会費を改定 6千円と4千円に 見学会では神話の里・高千穂を満喫

2019年度総会・研究大会並びにシンポジウムを、6月22日(土)に太宰府天満宮(太宰府市)で開催した。研究発表やシンポジウムのほか、翌日の見学会では高千穂まで足を延ばし、2日間で延べ100人近くの会員が参加した。

総会では藺田稔理事長の開催挨拶、葦津敬之理事の実行委員長挨拶の後、岡村穰理事を議長に選出。正会員総数210名のうち委任状を含む125名の出席を得て、平成30年度事業報告・収支決算、2019年度事業計画・収支予算、理事の退任について審議承認、伏見稲荷大社社叢管理実験地事業、東日本大震災被災地における被災社叢復興と復活への取り組み事業、社叢インストラクター養成事業と社叢インストラクターの資格更新について報告した。

今年度の事業計画として、社叢管理事業については、伏見稲荷大社社叢管理実験地での事業は終了し、水度神社・大岩神社等での事業を継続することとした。また、最終年を迎えた梅田善美震災復興プロジェクト事業では、被災直後から継続してきた東日本大震災被災地社叢復興支援事業の全てをまとめた報告書を7月初旬に発行する。

これらの事業執行のための予算について、最大の収入源である会費は02年の当学会発足以来改定されることがなく、10月に予定される消費税の引き上げ等に鑑み、正会員、市民会員共に1千円ずつの値上げの止むなきに至ったことを説明、了承を得た。

また、林進理事の退任を了承し、後任の専任については、来年度の理事の選任に併せて実施することとした。今後、林氏には顧問就任を依頼する予定。

続いての研究発表では李春子氏と前迫ゆり理事が研究発表、さらに博多湾総鎮守として志賀島に鎮座する志賀海神社権禰宜で、古代氏族・安曇族の末裔である平澤(安曇)憲子氏を招き、志賀海神社の由緒・地誌や山誉め祭りについて聞いた。

午後からのシンポジウムでは、森本幸裕理事が基調講演で、倒木・落枝事故の紛争事例を紹介しながら

Eco-DRR(生態系を活かした減災)の重要性を指摘した。続くパネルディスカッションでは、糸谷正俊副理事長、藤田直子理事、渡辺弘之副理事長が上甫木昭春理事のコーディネートのもて、過去の自然災害とその復興においては地域との関わりが濃密な社叢こそが大きな役割を果たすとした。

懇親会終了後、バスで高千穂に向けて移動。翌日はまず下野八幡大神社を参拝し、スギ、イチョウ、ケヤキの巨木に圧倒された。続いての高千穂神社では正式参拝の後、後藤俊彦宮司から、困難に直面した折には、境内の秩父杉を見て、それに打ち克つ力を得ることや、社叢を守る苦労話などを聞いた。さらに三十三番の神楽の中から「手力雄の舞」「鈿女の舞」「戸取の舞」を特別に拝見した。

この後、高千穂峡の散策、昼食を挟み穂觸神社神社へ。「くしふる」について、藺田理事長の、「くし」=奇し「ふる」=触るで、カミという稀なるものが触れた(降臨した)地の意、という謎解きを聞いた。ここからさらに天岩戸神社、天安河原に足を延ばし、まさに神話の里・高千穂を満喫した1日となった。



ケヤキの巨大な神木の前で記念撮影(下野八幡大神社)

第1号議案

平成30年度事業報告書
(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

事業名	事業内容	実施日時	実施場所
通常総会の開催 関連事業の開催	年次総会・シンポジウム・研究発表会 見学会（諏訪大社上社・下社四宮巡拝）	6月 10日 6月 9日	諏訪大社下社秋宮 諏訪大社四宮
理事会の開催（3回） 第53回 第54回 第55回 第56回	平成30年度総会開催 等 理事長の選任 2019年度総会開催について 等 2019年度総会運営 等	6月 9日 6月23日 11月12日 3月22日	諏訪大社下社春宮 社叢学会事務局 真和総合法律事務所 社叢学会事務局
定例研究会の開催 関西 第81回 第82回 第83回 第84回 関東 第78回 第79回 第80回 第81回 中部 第33回	社叢(社寺の森)、どうして鎮守の森といい鎮守の林とい われないのか 住吉大社参拝と社叢研究 明治末期の神社合祀と神社境内の整備 出雲大神宮参拝と磐座登拝 東京付近の鎮守の社の現状を見る 人を異界にさそうもの-音楽と森 講演後ソプラノリサイタル 福島第一原発事故による里山の放射線の状況と防護対策 日本のイチョウ巨木の遺伝的異変の地域性と分散史 尾張北部の古墳と神社の系譜	7月28日 9月29日 11月24日 3月23日 4月21日 7月14日 10月13日 1月26日 10月28日	伏見稲荷大社 住吉大社 伏見稲荷大社 出雲大神宮 國學院大學 國學院大學 國學院大學 犬山里山学センター
社叢保存活動	伏見稲荷大社社叢管理実験地事業 大岩神社社叢管理事業 水度神社社叢管理事業 社叢見守り隊事業	7月28日・9月14 日・10月6日・11 月24日 8月1日・11月10日 11月26日 月1回	伏見稲荷大社 大岩神社 水度神社 関東(武蔵国) 関西(神戸市西部)
梅田善美助成金震災復興 プロジェクト事業	東日本大震災被災社叢復興支援事業報告書作成	通年	本部事務局
会員証発行	会員約420名分	通年	会員へ郵送
会報発行(6回)	「鎮守の森だより」(A4判・4～6ページ)	奇数月初旬	会員へ郵送
会誌発行	『社叢学研究』(A4判・93ページ)	3月初旬	会員へ郵送
社叢インストラクター養成事業 セミナーの開催 資格更新の認定	第14回社叢インストラクター養成セミナー 1名の資格更新を承認	11月10日・24日 3月22日	大岩神社・伏見稲荷 大社 本部事務局
ホームページおよびSNSの運営	会員並びに一般市民に対するPR	通年	インターネット

第2号議案

平成30年度事業会計収支決算
(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

科 目	金 額		科 目	金 額	
I 収入の部			II 支出の部		
1 会費収入			1 事業費		
正会員会費	935,000		総会関係費	701,623	
市民会員会費	162,000		定例研究会費	139,262	
賛助会員会費	1,550,000		会報「鎮守の森だより」関係費	302,216	
協力会員会費	620,000	3,267,000	会誌『社叢学研究』関係費	471,900	
2 事業収入			社叢インストラクター養成事業費	40,000	
社叢インストラクター養成事業	42,000		梅田善美震災復興プロジェクト事業	179,770	
社叢管理	37,800		社叢管理事業	136,640	1,971,411
書籍販売	43,550		2 管理費		
総会関連事業	501,500	624,850	雑給	1,800,000	
3 委託金	1,000,000	1,000,000	雑給		
4 助成金			旅費交通費	154,660	
花博協会	257,000		通信費	152,109	
夏原グラント	300,000	557,000	地代家賃	907,200	
5 雑収入			租税公課	3	
受取利息	21		事務用品費	33,807	
『社叢学研究』追加掲載料	10,000		支払手数料	54,732	
その他寄付金	26,100	36,121	水道光熱費	7,637	
			雑費	3,000	3,113,184
当期収入合計(A)		5,484,971	当期支出合計(B)		5,084,595
当期収支差額(A)-(B)					400,376
前期繰越支出差額(C)					288,653
次期繰越収支差額(A)-(B)+(C)					689,029

第3号議案

2019年度事業計画書
(2019年4月1日～2020年3月31日)

事業名	事業内容実施	予定日等	実施予定場所等
通常総会の開催 関連事業の実施	年次総会・シンポジウム・研究発表 高千穂神社と周辺神社等参拝	6月22日 6月23日	太宰府天満宮 高千穂神社等
理事会の開催		3回程度	本部事務局等
定例研究会の開催 関西定例研究会 関東定例研究会 中部定例研究会 福岡県定例研究会	会員相互の研鑽、市民への啓発 会員相互の研鑽、市民への啓発 会員相互の研鑽、市民への啓発 会員相互の研鑽、市民への啓発	7月・9月・11月・20年1月・3月 4月・7月・10月・20年3月 1回程度 1回程度	伏見稲荷大社 他 國學院大学 他 太宰府天満宮 他
社叢保存活動	水度神社等社叢保全事業 社叢見守り隊事業	通年 通年	水度神社等 全国
梅田善美震災復興プロジェクト 事業	東日本大震災被災社叢復興支援事 業報告書の発行	7月	本部事務局
会員証発行	平成30年度会員証約400名分	7月～	会員へ郵送
会報発行(6回)	「鎮守の森だより」情報と研究会報告	奇数月初旬	会員へ郵送
会誌発行	『社叢学研究』研究論文と情報	2020年3月	会員へ郵送
社叢インストラクター 養成事業	社叢インストラクター養成セミナー等の 開催 社叢インストラクター資格認定試験の実施	7月～11月 2020年2～3月	関西で開催
ホームページおよびSNSの運営	会員並びに一般市民に対するPR	通年	インターネット

第4号議案

2019年度収支予算書
(2019年4月1日～2020年3月31日)

科 目	金 額		科 目	金 額	
I 収入の部			II 支出の部		
1 会費収入			1 事業費		
正会員会費	1,080,000		総会関係費	550,000	
市民会員会費	200,000		定例研究会費	150,000	
賛助会員会費	1,550,000		「鎮守の森だより」関係費	350,000	
協力会員会費	620,000	3,450,000	『社叢学研究』関係費	450,000	
2 事業収入			社叢インストラクター養成事業費	50,000	
社叢インストラクター養成事業	35,000		梅田善美震災復興プロジェクト事業	1,100,000	
資格検定料・認定料	15,000		社叢管理事業	253,000	2,903,000
養成セミナー等参加料	20,000		2 管理費		
社叢管理	300,000		雑給	1,800,000	
書籍販売	18,000		旅費交通費	150,000	
総会関連事業参加費等	700,000	1,053,000	通信費	170,000	
3 梅田善美震災復興プロジェクト 委託金	1,000,000	1,000,000	地代家賃	915,600	
4 雑収入			租税公課	0	
寄付金等	50,000		事務用品費	50,000	
利息	15	50,015	支払手数料	55,000	
			水道光熱費	9,000	
			理事会関係費	10,000	3,159,600
			3 予備費	0	0
当期収入合計(A)		5,553,015	当期支出合計(B)		6,062,600
当期収支出差額(A)－(B)					-509,585
前期繰越支出差額(C)					689,029
次期繰越収支差額(A)－(B)＋(C)					179,444

第5号議案 理事の退任の件

理事の退任：林 進 理事の新任：補充せず

報告事項 伏見稲荷大社社叢管理実験地事業の件、「東日本大震災被災地における被災社叢復興と復活への取り組み」事業の件、社叢インストラクター資格更新について



日本の自然林 -分布と動態-

講 師：原 正利(社叢学会理事・元千葉県立中央博物館生態環境研究部長)

日本列島はユーラシア大陸の東に位置する大陸島で、その骨格は約1,500万年前に形成された。北半球の中緯度に位置し、南北に長く亜熱帯から亜寒帯までの気候帯を含む温暖な海洋性気候下にある。降水量が多く湿潤で、冬は日本海側は多雪、太平洋側は寡雪。毎年、台風の襲来を受け、地質の変動帯に位置し、火山が多く地震が頻発するといった特徴がある。

植物相の特徴として、種多様性が高く、約4割が固有種である、針葉樹の多様性も高く、固有種、遺存種も見られる、大陸との共通種も多い、といった点があげられよう。これは、大陸と共通の植物相を原形としながらも、その後の気候変動や、北や南からの植物の侵入、隔離に伴う新種の分化や種の絶滅などの過程を経て形成されたものである。

日本の冷温帯性落葉広葉樹林帯は、ブナが優占することで特徴づけられ、ブナ帯と呼ばれることがあるが、中国や朝鮮半島の冷温帯域にはブナ属自体が分布しない。すなわち、日本のブナ林は、海洋性気候下にある日本固有の植生である。中国のブナは、植生帯を作らず、常緑広葉樹林帯の中に点在する。ブナの分布が途切れる北海道南部黒松内低地帯以北の地域では、エゾマツ、トドマツなどの針葉樹がミズナラやハルニレ、シナノキなどと混交する森林が広がっている。これはサハリンやロシア沿海州に広がっている森林と類似し、汎針広混交林帯としてまとめることができる。

朝鮮半島や中国東北部の落葉広葉樹林は、種組成の違いから、上部温帯林と下部温帯林に分けられると考えられているが、日本の日本海側の多雪地では、ブナ林が卓越しており、この区分は不明瞭である。

日本でも、太平洋側の地域では、冷温帯下部にイヌブナやコナラ、アカシデ、イヌシデなどの優占する多様性の高い森林が分布する。

台風や地滑り、洪水などは既存の森林を激しく破壊する。一方、それは森林再生の契機ともなり、生物多様性を高める効果がある。生態学では、このような破壊の空間スケールや強度、頻度などを、攪乱体制と呼んで、森林生態系の自己維持機能を知る上で、重要視してきた。

攪乱の空間スケールに応じて、森林の再生過程を、一次遷移、二次遷移、微小遷移（循環遷移）に分けることが出来る。1) では、土壌が形成されていない状態から植生が再生し、風散布種子や鳥散布種子による植物の侵入が重要である。2) では、土壌が存在する状態から植生が再生し、土壌中に存在する種子（埋土種子）からの再生が重要である。3) では、森林の部分的破壊、例えば、高木の枯死に伴う高木層の欠如した部分（林冠ギャップ）で植生が再生し、種子と共に、林床に待機している稚樹が重要である。火山や湿原における一次遷移、河川の氾濫や土石流、台風の強風による落枝や倒木などは、日本列島の植生を豊かにしている大きな要因である。

中国大陸では森林破壊が激しく元の自然林なのかはわからない。また日本でも、例えばコナラやクリなどの大木は、鉄道を作るときの枕木に切られたためあまり見られないなど、近年、人が植生の変化に大きく影響を与えている。人口林にもすばらしいものはあるので一概には言えないが、森に対する敬意や思想があるかどうかは、森の存続に大きく関わってくるのではないだろうか。（文責 渡邊節子）

次回予告【第79回関東定例研究会】

- ◆日 時：7月27日(土) 14:00~16:30
- ◆場 所：國學院大學渋谷キャンパス常磐松ホール（変更の可能性あり）
(東京都渋谷区東4-10-28)
- ◆テマ：ジャポニスム（ポーラ伝統文化振興財団特別企画）
 - ◎ 講演：鬼と仏—日本人の信仰の姿
 - ◎ 講師：J.A.キブツ(元フランス国立科学研究センター教授)
川寄瑞穂(神戸大学 日本学術振興会特別研究員PD)
 - ◎ 映像上映：鬼来迎 鬼と仏が生きる里(38分 2014年制作)
- 共催：ポーラ伝統文化振興財団特別企画
社叢学会・國學院大學環境教育研究プロジェクト
- ★ 今後の予定：10月26日・1月25日

★ 東日本大震災復興支援事業報告書の購入ご希望の際は、tel・fax(075-212-2973)、mail(shasou@ams.odn.ne.jp)にてお申し込み下さい。目次は次頁をご参照ください。1部3千円(会員のみ送料込み)です。

いのちの森をたどる -東日本大震災復興支援活動の記録- 目次

はじめに

1部 2011年度から2017年度にわたる7カ年の調査活動の記録

いのちの森—社叢復興に向けて(平成23年度事業報告書)

コラム 神さまの不思議

社叢の現状と減災に果たした役割(平成24年度事業報告書)

平成25年度事業報告(社叢学研究12号)

平成26年度事業報告(社叢学研究13号)

コラム 被災神社と森の明日

平成27年度事業報告(社叢学研究14号)

平成28年度事業報告(社叢学研究15号)

平成29年度事業報告(社叢学研究16号)

2部 いのちの森をたどる—3.11被災地の社叢は今— 調査担当者が感じたこと

岩手県編

1 多くの人を救ったいのちの森 横山八幡宮・藤原比古神社・熊野神社(宮古市)

2 鎮守の森と祭りがコミュニティ復興をリード 天照御祖神社(大槌町)

コラム あの日からの1年間 ~事務局だより~①

3 火災を退けた奇跡の社、祭りのシステムが被災者を助けた 小槌神社(大槌町)

4 不思議の森の二渡さん 大槌稲荷神社(大槌町)

5 津波でんでんこ・奇跡と悲劇、供養絵馬 鶴住神社(釜石市)

6 美しい社叢は地域の誇りだったが… 神坂熊野神社(大船渡市)

7 スギのご神木は枯れてモニュメントに 今泉天満宮(陸前高田市)

コラム 海岸林の再生

宮城県編

1 南三陸町のアスナロ物語 上山八幡宮(南三陸町)

2 海岸自然林の趣を残す美しい森と三連の兄弟ケヤキ 大原浜熊野神社(石巻市)

コラム 海岸林の再生

3 中国人労働者のいのちを救った社叢—コミュニティの中核として 山祇社(女川町)

4 歌枕と津波石 二つの津波伝承 末の松山 沖の石(多賀城市)

5 不思議な林は枯れて無くなった 狐塚(仙台市)

コラム 土壌化学分析と社叢

6 ここに故郷あり 一女性宮司と社叢再生の足跡をたどる— 八重垣神社(山元町)

コラム 神さまの不思議

7 雄勝法印神樂を守る 葉山神社・石神社(石巻市)

8 仙台平野海辺の社は 天照皇神社・浪分神社(仙台市)・下増田神社(名取市)

9 失われた社叢と社殿 一針葉樹植栽による社叢再生の一步 山王宮(仙台市)

コラム 仙台湾沿岸の社叢その後

10 湧水を求めて 青麻神社(仙台市)

福島県編

1 社殿を守った大杉と早い宮再建の工夫 大塚稲荷神社(相馬市)

2 タブノキの社叢が村民の命を守った 寄木神社(相馬市)

コラム 我が故郷(ふるさと)

3 再建された社・これからの社 山田神社・御刀神社(南相馬市)

4 多くの人命を無くした地域の守り神の今 照崎神社・稲荷神社・綿津見神社(南相馬市)

5 5年間の時間が止まった荒涼の景 苕野神社・初発神社浪江町

コラム あの日からの1年間 ~事務局だより~②

6 震災と木々 御宝殿熊野神社・植田八幡神社(いわき市)

7 残された社寺林 豊間八幡神社・豊間諏訪神社(いわき市)・櫛葉波倉稲荷神社(櫛葉町)

8 地域に残されたいのちを守る神社と森 久之浜諏訪神社・稲荷神社・見渡神社(いわき市)

3部 シンポジウム記録 被災地の社叢調査を活用した震災復興を願う

社叢復興に向けて(2014年6月22日開催)

災害と社叢文化(2013年3月2日開催)

社叢が紡ぐ地域の絆~いのちと心を守る鎮守の森~(2011年11月16日開催)

東日本大震災社叢復興支援事業報告書を発行

8年間の全てを記録 現地調査員の生の声も

頒価 3,000円 目次は4頁に

事務局から

- 2019年度(2019年4月～2020年3月)の会費の振替用紙を同封いたしました。1面にも記載いたしました通り、今年度から正会員会費を6千円に、市民会員会費を4千円に改定いたしました。諸事多端の折とは存じますが、よろしくご了承ください。よろしくお願い申し上げます。

なお、払い込みには銀行振り込みもご利用いただけます。三菱UFJ銀行 京都支店 普通口座 6720345 特定非営利活動法人社叢学会 理事長 藪田稔 です。銀行等から郵便局振替口座にお振り込み頂く場合は、099店 当座 0172640 特定非営利活動法人社叢学会 にお問い合わせいたします。

学会活動を円滑に運営するためにも、会費の納入方、よろしくお願いいたします。入金確認後、会員証をお送りいたします。

- 出光カードの申込書を同封いたしましたが、同カードではポイント還元の一環として「鎮守の森保全育成のための寄付」を設定し、その半額が当学会に寄付されることとなっています。会員の皆さま方におかれましても、同カードをご利用いただき、余剰ポイント活用にこの寄付をご一考いただければありがたく存じます。

- 震災復興支援全事業報告書は、これまでの現地調査の報告データやシンポジウム等の記録の他、現地調査担当者がそれぞれの感想や復興への思い、提言を書き込んだ新稿など盛り沢山の内容です。この大災害を忘れないためにも、ぜひお手元に1冊お持ちください。

編集後記

約束は守る！ ウソはつかない！は小学校1年生で習うことでしょうか！ 長い時間を閱してオトナになったら忘れるのかっ！！ ったく！！ いつもの総会に加え、会誌編集と同じくらいへヴィな報告書(300頁超の大作！)編集にこの会報の作成。腕は2本、何よりもアタマは1つしかないのだぞ！！

で、総会です。今年は見学会に旅行代理店の担当者が付いて下さったので大幅に楽になるはずが。水田のオタマジャクシに熱中するオトナ相手に、牧羊犬よろしくパタパタと汗を流し、声を枯らすフジオカに、「幼稚園の先生みたいや」とN理事。いやいや、幼稚園の子供は**ごらぁ!**の威嚇で言うことを聞けけれど、このオトナたちは。。。かくしていつものようにへとへとになりながらも無事終了。ほっと一息！ なんてとんでもない。いつもより早く出勤してガンガン働いてますっ。

(藤岡 郁)

次回予告【第83回関西定例研究会】

- ◆日 時：7月27日(土) 13:30～16:30
- ◆場 所：賀茂別雷神社(上賀茂神社)(北区上賀茂本山339)
- ◆テマ：賀茂別雷神社(上賀茂神社)参拝と社叢拝観
- ◆講師：田中 安比呂(賀茂別雷神社宮司)
松谷 茂(京都府立植物園名誉園長)

掲 示 板

『原稿募集!』

『社叢学研究』第18号への投稿：論文、研究ノート、短報、資料紹介や調査報告(各400字詰原稿用紙40枚以内)と「鎮守の森の活動報告(祭、音楽会、調査、ワークショップなどの実施報告、抱える問題点など)」「社叢訪問記」(各1,200字程度)を募集いたします。締め切りは、論文等10月31日(木) 活動報告等12月25日(水) いずれも必着。

* 書評欄では会員の皆さま方の著作を取り上げています。出版された方は、ぜひご献本下さい。

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号
TEL・FAX 075-212-2973

URL <http://www.shasou.org> E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp

社叢学会関東支部 〒368-0041 秩父市番場町1-1 秩父神社社務所内
TEL080-1514-5032 E-Mail shasougakkai@hotmail.com